

第1回 姫路市市民活動・協働推進事業計画検討懇話会 会議録

日 時 令和2年7月27日（月） 午後3時～午後5時10分

場 所 姫路市役所北別館 4階 401会議室

出席者 構成員10人、事務局7人

（構成員） 新川 達郎 藤本 真里
長田 秀人 岩田 稔恵
長谷川 文夫 森下 龍峰
前川 裕司 大森 正雄
大西 弘 依田 法子

（事務局） 姫路市市民参画部 平石部長
姫路市市民活動推進課 藤保課長、村田課長補佐、山岡主任、奥村専門員
市民活動・ボランティアサポートセンター 佃所長、岸本主任

傍 聴 傍聴可・傍聴人無し

次 第

- 1 開会
- 2 市民局長あいさつ
- 3 構成員紹介
- 4 座長選任等
- 5 議 事
 - (1) 姫路市市民活動・協働推進事業計画検討懇話会について（資料1）
 - (2) 姫路市の市民活動の状況について（資料2-1～2-4）
 - (3) 姫路市市民活動・協働推進事業計画について（資料3）
- 6 そ の 他
日程調整について
- 7 閉 会

【市民局長あいさつ】

沖塩市民局長公務のため、平石市民参画部長より挨拶。

【構成員紹介】

構成員及び事務局職員の紹介。

【座長選任等】

構成員の意向により、座長選任を事務局に一任。構成員の同意を得て、新川構成員が座長に就任。新川座長の指名により、藤本構成員を座長代理とする。

【議 事】

事務局	【姫路市市民活動・協働推進事業計画検討懇話会について（資料1）の説明】
座 長	今回の懇話会については、まず第3次計画の進捗状況を事務局より報告してもらい、構成員に意見を求める。その意見を踏まえ、新たな計画について、次回以降の懇話会で検討していき、年度内に次期計画をまとめる。このような方針で進めていきたい。 それでは、議事(2)「姫路市の市民活動の状況について」事務局から説明をお願いしたい。
事務局	【姫路市の市民活動の状況について（資料2-1～2-4）の説明】
構成員	質問は3点。 1点目、第3次計画の4年が経過したが、それぞれの項目の進捗状況や課題等について聞きたい。 2点目、市民、ボランティア関係者、職員と3種類のアンケートを実施しているが、職員アンケートの回答率が最も低い。どのように受け止めているか。 3点目、7つの基本指針を掲げて十数年経過しているが、この間に市民も含め我々の意識は変化している。私も地域で活動しているが、参加者は減少傾向。自分に関連することは行うが、地域全体のことには取り組みが弱い。その意味合いでも風土という観点で、何か計画に盛り込みたいがいかがか。
座 長	1点目については、次の議題で報告してもらうため、2点目、3点目について事務局より説明を。

事務局	<p>2点目については、ご指摘のとおり。問題点の1つに調査の方法がある。職員がパソコンで見ることのできる掲示板にアンケート依頼を掲載し、電子による回答を依頼している。ある意味、職員が自発的に回答するという方法をとっている。改善方法としては、強制的に所属ごとに回答を出させることも考えてはいるが、回答方法も含め、職員に市民活動・協働への意識を持たせるため、自発的な回答を依頼している。ご意見も踏まえ、次回以降のアンケートについては実施方法の見直しを行いたい。</p>
構成員	<p>職員研修の評価はどうしているのか。</p>
事務局	<p>個別の研修等については、事後の評価はしていないが、各研修施設で参加者に対し事後のアンケートを行い、意見を聞いている。</p>
事務局	<p>ご質問の3点目については、社会全般として、仕事を長く続ける方が増加し、地域の活動に参加しようとするタイミングが遅くなっている等、社会情勢による意識の変化があることは認識している。ただ、現状、基本指針の大きな方向性は変わっていないと考えており、原則、基本指針はこのままとし、計画の中で社会情勢の変化等に応じた対応を考えている。ご意見を参考に、地域の風土、地域の多様性等に合わせた事業の取り入れも検討したい。</p>
座長	<p>地域活動の活発化については、第3次の計画時にも重要とのことで、いくつか新たな項目として盛り込んできた経緯がある。次期計画でも重要な柱となるため、今後議論していきたい。</p>
構成員	<p>次回の会議への要望だが、資料2-1「3市民活動の状況」に地域自治組織やボランティア活動団体の団体数等が挙げられているが、この団体数及び会員数の5年間の推移を出してもらいたい。</p>
事務局	<p>次回の会議で用意する。</p>
構成員	<p>2点あるが、まず1点目。資料2-4、職員意識調査の「市民活動との協働状況」、「協働を進める必要性」のところで、「市民活動との協働状況」については、「よくわからない」が約4割あるが、「協働を進める必要性」では、約8割が必要だと答えている。これでは、協働状況についてわからないと答えている人まで、協働が必要だと答えていることになるが、職員の総意は。</p>

	<p>2点目。7つの指針があるが、それぞれが単体すぎる。これを一つにまとめるようなキャッチコピー、目標等が必要。横の繋がりを密にできるようなコミュニティ構築につながるものになればと考えている。</p>
事務局	<p>1点目の職員意識調査については、まだ分析が進んではいないが、推測では、協働が必要かどうかを問われると必要だと感じているが、実際は、自身の業務で協働を行っていない等のため、協働状況はわからないといった回答になっているのではと考える。このあたりの意識をいかに上げていくかが重要だと感じている。</p>
構成員	<p>地域には、自治会や子ども会、婦人会、消防団、防犯等、各種団体があるが、地域に住む職員のグループはない。地域における職員の協働に対する意識については、市の職員として関わっていく舞台が与えられていないため、その環境整備が必要である。</p>
座長	<p>このあたりについても、今後の計画策定の中で議論していきたい。 それでは、議事(3)「姫路市市民活動・協働推進事業計画について」事務局から説明をお願いしたい。</p>
事務局	<p>【姫路市市民活動・協働推進事業計画について (資料3)の説明】</p>
構成員	<p>資料3「3. 進捗状況及び今後の取り組み」の中の「今後の取り組み」は、今後の方向性として記載してあるかと思うが、こうなった原因は次回に提示してもらえるのか。優先順位等がなく不明瞭である。</p>
事務局	<p>今回の資料は、第3次計画の進捗状況をまとめたもので、参考資料として付けている個別の進捗状況調書の中の「年度別の実施状況」及び「次年度以降の取り組み方針」を整理したものとなっている。原因等は本来、この調書の中で書かせていただいているが、分かりにくい、はっきり書かれていないとのご指摘のため、今回は、この第3次の進捗状況、課題等を踏まえた上で、第4次計画案を提示させていただくので、それでご了承いただきたい。</p>
構成員	<p>評価方法について、行事の参加者数が多ければ評価が高い等の評価方法は正しいのか。本来の原因を把握しなければ、効果的な事業には結びつかないと危惧している。</p>

座長	<p>事務局は、実態がどうなっているのかを担当部局へ確認する必要があるが、優先順位をどう決めるのか、その原因を踏まえて、次の計画をどうたてていくのかを議論するのがこの場という観点でとらえていただきたい。</p>
構成員	<p>ひめじおんまつり 10 周年記念についての説明があったが、実際に参加して、自治会、婦人会、老人会、子ども会、NPO 法人等、各種団体が同じラインに立ってボランティア活動をしているわけではないと感じている。市民の基本の活動は校区単位。市民活動・ボランティアサポートセンターのある市民会館だけに集めるのではなく、校区をいくつかまとめたところに市民活動の拠点を作る必要がある。</p> <p>また、「市民からの基金等による市民活動団体への支援」とあったが、これ以上、市民からの寄付金を集めて事業実施することはおかしいと思う。</p>
構成員	<p>資料が膨大。このような詳細な話よりは、大枠の議論ができるほうがよい。5 年先までの計画であれば、現状及び5年後の状況が見えるようなもので、有効な議論を行いたい。</p>
構成員	<p>各担当部署が自己評価しているものを、この懇話会では再評価するのか。懇話会の役割は。</p>
事務局	<p>今回の懇話会は私的懇談会で、専門的な見地からご意見をいただくものとなっている。</p> <p>現在の担当部署の自己評価は、数値的な目標があったほうが評価しやすいとのことで、このような形の調書となったが、逆に数値的な評価に偏ってしまっている。</p> <p>今回の懇話会では、これらの自己評価を再評価していただくというものではないと考えているが、懇話会でいただいたご意見を基に、見直し、改善を行う。</p>
構成員	<p>ひめじおんまつりについて、登録団体の中で、どれぐらいの数の団体がどのような形で参加しているかが分かれば、計画策定の参考になるのではないかと。</p> <p>また、資料 2-3、ボランティア団体のアンケートにあった「センターの支援事業の利用状況」については、「公民館、市民会館、市民センター等の利用」が突出している。これは、登録団体に減免措置があることが理由と思われる。登録をするためには、毎年度、活動報告を行うが、一度登録すれば、毎年度登録ができてしまうシステムに問題がある。その選別方法等を明確にすべき。毎年度の登録書類や登録を認める基準等の書類が参考としてあれば、今回の計画を作るための参</p>

<p>構成員</p>	<p>考になる。</p> <p>資料 3 の 17 ページで、地区連合自治会への行政事務補助員の配置、市内 3 地区での地域活動充実支援事業の実施とあるが、市として、この支援を行うことで、どのような地域組織を目指しているのか等、アウトプットがないと各連合自治会で有効に使うことができない。何を支援し、何を狙っているのか。</p>
<p>事務局</p>	<p>まず、行政事務補助員については、以前より、市が連合自治会に委託している事務により、連合自治会の負担が増加しているため、行政事務補助員を配置することで、その事務負担の軽減を目指している。</p> <p>また、地域活動充実支援事業については、各種団体の活動への参加者減に対応するため、持続可能な地域活動にするにはどうすべきかというところを、市内 3 地区を公募の上、選定し、モデルケースとして進めている。</p>
<p>構成員</p>	<p>この支援を受けている立場として、まず行政事務補助員については、自治会の役員の成り手も少なく、自治会長の仕事も膨大となる中で、以前は自治会長がしていた事務的な仕事を行政補助員にしてもらっている。</p> <p>地域活動充実支援事業については、地域活性化のため、これまで公民館長にも色々とお世話をお願いしてきたが、それを困らず一緒にできるようにするのがこの事業と捉え、今、協力をして行っている。</p>
<p>座 長</p>	<p>次期計画を策定するにあたり、地域基盤における地域活動については大きな課題。NPO 法人のような全市的な活動も必要であるし、一方で地域における活動も必要。次回以降、どちらについても議論していきたい。</p> <p>本日は活発に議論ができた。次回は、次期の計画案を事務局から提案いただき、検討していきたい。</p>

【その他（日程調整について）】

第 2 回 姫路市市民活動・協働推進事業計画検討懇話会は、令和 2 年 9 月 8 日(火)午前に開催する。